

第64回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■大阪府知事賞部門	大阪府知事賞	突板のギャラリー UTSUROI TSUCHIYA ANNEX	今津康夫 垣田博之
■渡辺節賞部門	渡辺節賞	宗田家住居 堰の家	竹内正明・小池志保子・真砂日美香・榊田洋子 斉藤智士

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2015年1月1日から2019年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
完了検査済証発行日現在39歳以下

審査委員会

委員長	長坂 大 (京都工芸繊維大学教授)
委員	荻原廣高 (神戸芸術工科大学准教授)
	寺本武司 (前大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長)
	中嶋節子 (京都大学大学院教授)
	橋本一郎 (エス・キューブ・アソシエイツ)

審査

応募数 大阪府知事賞部門 27点

渡辺節賞部門 8点

審査委員会 3回

●第1次審査

令和2年3月3日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門7点、渡辺節賞部門2点を選考

●第2次審査

令和3年2月19日 設計者によるプレゼンと審査委員との質疑応答

●最終審査

第2次審査終了後に実施

大阪府知事賞部門：大阪府知事賞2点、渡辺節賞部門：渡辺節賞1点を選出

表彰式

日にち 令和3年5月19日(水)

本会定時総会式典席上

会場 KKR ホテル大阪

審査経過並びに総評



審査委員長
長坂 大

今年は、パンデミック下における建築コンクールの可能性を模索する年となった。応募が締め切られた2020年1月31日にはまだ、忍び寄る危機の大きさに気づいていなかった。しかし一次審査が終わった3月3日、世界はすでにコロナ禍に突入していた。

建築を評価するためには、その建築が建つ場所に赴き、その場所の地理的、社会的現実を確認し、現実の空間を体感す

ることが望ましい。しかし今回はこれを実践できない。まず現地審査をめぐる審査団の大型バスの閉鎖空間が問題になり、現地視察における建築主や応募者も含めた関係者の集団化がリスクとなった。時間と場所を人々が共有するという、建築の本質的な役割が問われているのである。当初、コロナ禍が収まり次第現地視察を実行する予定であったが、半年を経過してなお事態は好転しなかったため、大阪府建築士会「大阪建築コンクール」運営委員は審査委員会と協議し、本年度は現地審査を諦めて審査会場での対面プレゼンテーションによって最終審査を行うことにした。もちろん延期や中止も検討されたが、一定条件下ではあっても、その評価方法を報告した上で本年度中に入選者を選ぶ方が望ましいと考えたのである。

さて、ここからは例年と同様具体的な審査経緯を記載することにしよう。今回の応募数は、「大阪府知事賞」27点、「渡辺節賞」8点。2020年3月3日に行われた一次審査では、資料の自由閲覧時間を経過後、投票と議論によって現地審査対象作品をそれぞれ7点と2点に絞った。コロナ禍の長い中断期間を経て2021年2月19日に行われた二次審査では、計9組の応募者が対面でパワーポイントによるプレゼンテーションを行った。発表10分・質疑応答10分である。発表後、引き続き最終審査会を行なって入賞作品4点を決定した。

知事賞の「UTSUROI TSUCHIYA ANNEX」は審査委員全員が推薦した作品である。消防署の興味深いコンバージョンで、場所性が重要であるため、審査委員会中、最も現地視察を求められた

作品であったが実現できず、応募者のプレゼンと委員同士の情報交換によって場所についての情報を補いながら議論した。同じく知事賞の「宗田家住居」は、第2位の得票数であった。市街地における民家改修プロジェクトとして評価される一方、オリジナリティーも問われたが、構造補強や軸線の扱い等が評価された。知事賞3つ目の「突板のギャラリー」は、同点3作品から議論の後に選ばれた作品である。倉庫に向き合って新築された

ギャラリー棟は洗練された造形と、工場敷地全体に目が行き届いたランドスケープデザインに好感が持った。

以下、惜しくも入選に至らなかった作品について少し触れておこう。「オセロハウス」は、将来の親世帯住宅との個室／家族室の交換システムが興味深い提案であったが、その空間的魅力について疑問が残った。「アサヒファシリテイズ 蜚池寮 楓」は広い共用生活空間と二戸のユニットとの組み合わせによる平面が明

快であったが、シェアキッチンと共用空間（コモンスポット）との関係は、より緩やかで柔軟であることが期待された。「城東区複合施設」は、膨大な与件を狭い敷地内にまとめた手腕は高く評価される一方、威圧感の軽減・壁面分割といった目標や現実の空間造形にはそれほど魅力が感じられなかった。むしろこの長さを積極的に表現するのは難しかっただろうか。「四畳半キューブの家」は3m近い高低差のある敷地を人工地盤と

大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 突板のギャラリー

設計者 今津康夫（株式会社ニキベン一級建築士事務所）



今津康夫
1976年3月生まれ
1995年4月 大阪大学工学部地球総合
学科入学
1999年3月 大阪大学工学部地球総合
学科卒業
1999年4月 大阪大学大学院工学研究
科地球工学専攻入学

2001年3月 大阪大学大学院工学研究科地球工学専攻修了
2001年4月 遠藤剛生建築設計事務所に入社
2005年3月 遠藤剛生建築設計事務所退社
2005年4月 ニキベン一級建築士事務所開設 現在に至る
2015年4月～ 近畿大学非常勤講師
2016年4月～ 神戸芸術工科大学非常勤講師
2020年4月～ 武庫川女子大非常勤講師

【主な建築作品と受賞歴】

2008年 第42回SDA賞 最優秀賞・青木淳賞
2010年 JCD Design Award 2010 新人賞
2015年 第18回木材活用コンクール 日本木材青壮年団体連合会
会長賞
2015年 日本建築士会連合会賞 奨励賞
2018年 土木学会デザイン賞 優秀賞

建築位置／大阪府八尾市
建物用途／事務所
建築主／安多化粧品合板株式会社
施工者／株式会社中野工務店
竣工年月／2019年9月

構造／W造
階数／地上1階
敷地面積／613.13㎡
建築面積／225.37㎡
延床面積／120.00㎡

撮影 河田弘樹

〈審査講評〉木造平家の小さなギャラリーである。中庭をはさんで相対する古い倉庫と一体の景観づくりが奏功して、新築にもかかわらず、時間の経過を感じる落ち着いた佇まいに仕上がっている。深い軒下空間は、ギャラリーと中庭をゆるやかにつなぐ半屋外の領域であり、多様な活動の場となりそうだ。小径の木材によるあらわしのトラス架構は、力の流れが目に見えるようで小気味よい。小ぶりながらも豊かさの漂う空間は、ひとえに設計者の誠意の賜物であろう。こんな建築が街中に増えると楽しい。

（審査委員 橋本一郎）

審査風景



キューブで住まいにするという構想がユニークであった。しかし、人工地盤下の「近隣に解放された広場」やキューブの隙間の屋内空間の魅力が伝わらなかった。6つの団体が入居する大型複合ビル「京都経済センター」を取りまとめるのはさぞかし大変であっただろうと推察する。だが、たとえば2階の外周に設けられた屋外バルコニーや内部の吹き抜けは、都市空間としての意味や空間構成上の目的に共感が持てる一方、物理的な空

間に魅力が感じられなかった。

建築行為は産業活動と文化活動両方の側面を持つものである。おそらく多くの建築コンクールがそうであるように、このコンクールでもその後者についての魅力や革新性を主たる評価対象として論議した。それゆえ業務量の多さや克服した課題の数は、直接評価の対象とはならない。それが建築の性質を変える力として魅力的に作用した時はじめて評価される。今回、2つの大きな建築が選ばれな

かったのは主にこうした理由だが、実は、これは小さな建築においても同じである。小住宅で、建築家が家族論争をとりまとめるのに要したエネルギーは、それが魅力的な空間、あるいは新しい「何か」につながらなければ、社会や歴史に評価されることはない。

コロナ禍を通じて都市や建築に様々な思想転換が起きている。世界が「災転じて福となす」方向に進みますように。

大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 UTSUROI TSUCHIYA ANNEX

設計者 垣田博之 (垣田博之建築設計事務所)



建築位置／兵庫県豊岡市
建物用途／旅館・飲食店
建築主／有限会社つちや
施工者／株式会社谷口屋工務店
竣工年月／2018年10月

構造／RC造(既存改修)
階数／地上2階・PH1階
敷地面積／344.21㎡
建築面積／233.35㎡
延床面積／436.56㎡

撮影 母倉知樹



垣田博之
1968年6月生まれ
1987年4月 京都大学工学部化学工学科入學
1989年4月 化学工学科から建築学科に転学科
1991年4月 京都大学工学部建築学科卒業(卒業設計賞受賞)

1992年9月～1993年8月 フランス国立建築学校 パリ ラ・ヴィレト校(文部省給費交換留学生)

1995年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 修士課程修了

1995年4月 竹中工務店 設計部に入社

2013年3月 竹中工務店 設計部を退社

2013年4月 近畿大学建築学部 准教授、垣田博之建築設計事務所開設 現在に至る

[主な建築作品と受賞歴]

<UTSURUI TSUCHIYA ANNEX>第29回AACA賞 優秀賞、第3回建築設計学会賞、グッドデザイン賞2019、第22回兵庫県人間サイズのまちづくり賞 奨励賞

<京都文化医療専門学校>2015年京都景観賞 建築部門 奨励賞、2013年公共の色彩賞

<エスリードビル本町>2011年 大阪都市景観建築賞 奨励賞

<たげびし本社増築> 日本建築学会 作品選集2009、JCD賞 BEST100

<オムロン草津新3号館>日本建築学会 作品選集2008、JCD賞 BEST100

<灘浜スポーツゾーンクラブハウス>日本建築学会 作品選集2004、神戸景観ポイント賞、JCD賞 奨励賞

<審査講評> 城崎の温泉街に建つカフェとギャラリーを併設した宿泊施設である。1970年建築の旧城崎消防署をコンバージョンすることによって実現された。消防車の車庫であった1階は、オープンカフェとして街に開き、居室として使われていた2階を宿泊室とする。建物にまとめたステンレスメッシュスクリーンと城崎出身の日本画家・山田毅氏の風景画が、この地域特有の霧のUTSURUIを建物内外に表現する。経年した建物のもつ独特の雰囲気、柔らかな空気が足された。外壁のエンブレム、浴室と庭へと姿を変えたホースの洗い場など、消防署時代の記憶がさりげなく残されている点も好ましい。地域を守り続けてきた消防署が、地域と世界に開かれた新たな場として継承されたことが高く評価された。(審査委員 中嶋節子)



大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 宗田家住居

設計者 竹内正明・小池志保子・真砂日美香・樹田洋子



建築位置／大阪市中央区
 建物用途／事務所・ショップ・ギャラリー
 建築主／宗田ビル株式会社
 施工者／輝建設株式会社
 竣工年月／2018年5月
 構造／W造
 階数／地上2階
 建築面積／79.74㎡
 延床面積／148.77㎡
 撮影 多田ユウコ



真砂日美香
 2014年3月 大阪市立大学大学院博士
 前期課程修了
 2014年4月 ウズラボ入所
 [主な建築作品と受賞歴]
 (ミマモリ)をシェアする家(2014年 パナソニック・テクノストラクチャー住宅設計コンペティション佳作)/山之内元町長屋(2016年第33回住まいのリフォームコンクール・優秀賞)/MATSUMOTO Coffee(2019年 ASIA DESIGN PRIZE-Winner)/Suehiro Nagaya Residence(2019年 A'DESIGN AWARD & COMPETITION BRONZE Winner)



竹内正明
 2005年3月 京都工芸繊維大学大学院
 博士後期課程単位取得退学
 2002年11月 ウズラボ共同設立
 [主な建築作品と受賞歴]
 木材加工所事務所棟+集合住宅改修5カ年計画(SDレビュー2009入選)/2011年 Post-earthquake housing renovation (Regional Holcim Awards 2011 Asia Pacific Acknowledgement prizes)/京都府立堂本印象美術館(2018年GOOD DESIGN AWARD 2018 グッドデザイン賞)



小池志保子
 2011年3月 京都工芸繊維大学大学院
 博士後期課程修了(博士(工学))
 2000年4月 中村勇大アトリエ一級建築士事務所入所
 2002年11月 ウズラボ共同設立
 2011年4月 大阪市立大学准教授

[主な建築作品と受賞歴]
 木材加工所事務所棟+集合住宅改修5カ年計画(SDレビュー2009入選)/豊崎長屋(2009年 第8回原義信賞/2011年 グッドデザイン賞・サステナブルデザイン賞)/2011年 Post-earthquake housing renovation (Regional Holcim Awards 2011 Asia Pacific Acknowledgement prizes)



樹田洋子
 1992年3月 京都工芸繊維大学大学院
 博士前期課程修了
 1984年4月 (有)川崎建築構造研究所入所
 1989年10月 桃李舎一級建築士事務所開設
 2001年4月 (有)桃李舎に改称

[主な建築作品と受賞歴]
 西有田タウンセンター(2006年 JSCA賞 作品賞)/志井のクリニック(2010年 日本建築学会作品選奨)/豊崎長屋(2010年 都市住宅学会業績賞)/Courtyard House 湯里(2011年 第25回大阪市ハウジングデザイン賞)/行橋の住宅(2015年 日本構造デザイン賞)/春日の住宅(2017年 日本建築学会作品選奨)

〈審査講評〉大正14年に船場に建築された住居のリノベーションである。間取りを極力変更せずにギャラリーとしての新たな用途を付加するとともに、困難な伝統的建築物の耐震補強を行い、町家の魅力を大きく高めている。特に、フレームで強調しているミセの間から座敷、中庭、蔵までのヌケが素晴らしい。また、丁寧に素材を選び復元し、歴史を継承しながらまちに新たな魅力を生み出している。
 (審査委員 寺本武司)

渡辺節賞部門 渡辺節賞 堰の家

設計者 齊藤智士(建築設計事務所 SAI 工房)



齊藤智士
 1986年8月 京都府綾部市生まれ
 2011年3月 京都造形芸術大学建築デザインコース卒業
 2013年3月 広渡建築設計事務所退社
 2013年4月 建築設計事務所SAI工房設立
 2017年3月~2021年3月 修成建設専門学校 非常勤講師
 2021年4月~ 京都造形芸術大学 非常勤講師
 2021年4月~ 摂南大学 非常勤講師

[主な建築作品と受賞歴]
 [堰の家] 2016年 ケミュー施工事例コンテスト優秀賞(竹原賞) 受賞
 [堰の家] 2019年 屋根のある建築作品コンテスト 住宅部門 優秀賞 受賞
 2016年 住宅建築アワード設計競技 入賞
 2020年 SUGIMOTO建築デザインコンペティション2020 佳作

建築位置／大阪府豊能郡 構造／W造
 建物用途／専用住宅 階数／地上2階
 建築主／齊藤智士 敷地面積／178.04㎡
 施工者／株式会社池正 建築面積／88.91㎡
 竣工年月／2019年2月 延床面積／113.12㎡ 撮影 山内紀人

〈審査講評〉軽やかに浮かぶ屋根の下に、心地よい季節には穏やかな通風や自然光が促される。人と街、自然をつなぐ、中間領域としての大きな土間空間が印象的である。屋外から屋内、また水平にも上下にも、空間の連続性と領域性を巧みに操作している。これにより生まれる、季節や時間に呼応した多様に変化に富んださまざまな居場所は、ライフスタイルの変化が求められるこの時代に、人の営みにまで還帰して新たな住まいの在り方を提案している。

(審査委員 荻原廣高)